

ていましたがこの施設の完成により、2階の待合室から直接、フェリーに乗り下船できる動線となりました。

これら、稚内港と離島3港のボーディングブリッジの整備により、離島住民の方々の安心、安全な生活の確保と、最北観光の新たな賑わいの創出により、今後の宗谷地域の観光が活性化されるものと期待しています。



ボーディングブリッジを整備した稚内港フェリーターミナル

■ 香深港フェリーターミナル供用式典

礼文町 産業課

はじめに

平成24年に、「利札航路（稚内～利尻～礼文）の維持強化・改善を考える協議会」が発足し、ターミナル施設とフェリーの完全バリアフリー化が検討され、各港湾が足並みを揃えて整備を進めることとなりました。

香深港におきましては、平成26年6月、13年の歳月を経て耐震強化岸壁（延長160m）が完成、続いて本年3月には平成25年度から2ケ年で整備を進めてきましたフェリーターミナルが完成し、3月23日に供用式典が挙行されました。

今回のフェリーターミナル整備は、大きく分けると「既存施設のバリアフリー化に対応する改修」と「最新の耐震化基準を満たす増築工事」、さらに「基本施設となる固定式ボーディングブリッジの整備」です。外観は、平成元年に建設した既設ターミナルの「にしん番屋」風のイメージを継承、設備には緊急用ストレッチャーにも対応できる24人乗りエレベーターや礼文島で初めてのエスカレーターを設置するなど、港湾の安全向上と機能高度化を目的にバリアフリー化を図ることで、高齢者や障害者等が安全に利用できる旅客施設となりました。



にしん番屋風ターミナル（右側がボーディングブリッジ）

供用式典

式典は、吉田正人、三好雅北海道議会議員をはじめ、関係省庁及び近隣市町村長等島内外から100名の方に出席をいただき盛大に執り行われました。

初めに、主催者である小野礼文町長から「新しいフェリーターミナルは、礼文島の玄関口として島民はもちろんのこと観光客の利便性を考慮しすべての利用者にとって使いやすいことを基本とした。又、平成23年6月16日に登録された「みなとオアシスれぶん」の主要施設でもあり、「総合交流促進施設うすゆきの湯」、「ピスカ21」と連携し港湾を利用した地域の活性化を図るうえでの中心的な施設でもあり、誰でも気軽に立ち寄りのできる交流の場として運営していきたい。」とあいさつ、続いて、来賓の祝辞、祝電披露、工事概要の報告があり、最後に完成セレモニーとして、来賓の吉田、三好両北海道議会議員の他、北海道開発局 川合港湾空港部長、宗谷総合振興局 小野寺局長ら12名でテープカットを行い、出席者全員で渡り初めを行い完成を祝いました。



2F 待合ホールで行われた供用式典テープカットの様子